

住みたいと思えるまちに

今ある川西の良さを生かした
まちづくりを考えていくために
自宅兼仕事場を建てた



special interview

能勢電鉄滝山駅から徒歩2分のところに建つ、一風変わった一軒家。西野亮廣さんの家だ。

「川西の人口、減っていつてますよね。地元の友達に何とかしてって言われて。じゃあ、えんとつ町のプペル」美術館を造ろうと、滝山駅周辺に土地を買いました。それから友人が近くにカフェを、次は居酒屋をつくって。あれこれ川西のことを考えるうちに、人がたくさん訪れる場所じゃなくて、住みたいと思える場

所にしないと、って考えが変わりはじめたんです。新しいものをつくるだけじゃなくて、まずは今ある川西の価値を生かして、盛り上げていこうって。それを考えるには住んじゃうのが一番だ、と家建てたんです。今は東京と川西を行ったり来たりですね」
家の名前は「見上げる家」。1階から3階の天井までが吹き抜けになっている。
「上を向いた時、自然と笑顔になりませんか？例えば空間をつくる時、天井に光を集

めて物理的に上を向くような仕掛けをよくします。ワクワクするし、前向きになれる」
不在時はレンタルスペースとして貸し出し、近所とも良好な関係を築く。

「近所の人には、僕やスタッフがいるときは入っていいよ、その代わりにきれいに使ってね、留守のときは気に掛けてね、ってお願いしているんです。この前近所の子どもたちが家で遊んでたらセキュリティが鳴って、笑いましたね」
郷土愛で言うのではなく、川西は本当に良いまち、と熱い。

「住み続けていたら日常の一部になって、まちの価値に気付けないこと、多いです。僕も世界中旅して、改めて川西ってめちゃくちゃ良い場所だって実感しましたから。都会が近くて、昔の自然が残っていて。平野駅の横を流れる塩川とか、ないですよ、あんな場所他に。まちづくりを進めると、当然自然を切り開かないといけないんですけど、絶対残さないとだめなところもあるんです。外の人の意見を聞いて、まちの価値を守っていくことが大切だと思います」

西野 亮廣さん(42)

川西市出身。芸人、絵本作家としても活躍。代表作「えんとつ町のプペル」は発行部数70万部を超える。川西市内の温浴施設や寺社ともコラボレーションするなど、多岐にわたりにぎわいづくりに貢献



CHECK & QUIZ

次の空欄（○の中）を埋めてください。

1：川西の魅力をおRしませんか 2：市の○政状況

クイズ正解者の中から図書カード（1,000円分）を5人に差し上げます（正解者多数の場合は抽選。当選者のみに送付します）。応募方法：市ホームページ（右の2次元コードからアクセス可）から必要事項を送信するか、はがきにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、興味のある記事と感想を書き、12月12日（月）（消印有効）までに〒666-8501・広報広聴課「クイズ」係へ。

※11月号の正解は（タ）（援）で、113件の応募がありました。



10月末の人口（○内は前月比）

男………73,176人（-12）
女………81,963人（-14）
計………155,139人（-26）
世帯数……71,302世帯（+23）